

はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
ステークホルダーへの価値の向上	046
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
社会とともに	073
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

コーポレートガバナンス

事業活動のあらゆるレベルで 透明性を確保し、企業価値を創造

経営の透明性を確保したコーポレートガバナンス（企業統治）の充実は、日産のCSR推進において要となる取り組みです。私たちはCSRをより実効性のあるものとするため、経営陣の責任を明確にした経営目標や経営方針をステークホルダーに向けて公表し、その達成状況や実績をできるだけ早く開示しています。日産は、社会的責任を果たす経営体制を高いレベルで維持し、経営者層と社員、日産と社会の相互の透明性を保ち続け、ステークホルダーとの信頼関係を築いていきたいと考えています。

日産ウェイ

独自の企業文化が育んだ行動指針「日産ウェイ」

異文化共生・多様性（ダイバーシティ）を実現しながら価値を創出する独自の企業文化こそ、日産の自動車メーカーとしての強みです。日産とルノーのアライアンス（提携）に基づく相互作用が、ボーダーレス時代にふさわしい経営哲学や「行動」「心構え」を生み出しています。その中核をなすのが「日産ウェイ」です。「日産ウェイ」は、私たちが復活の過程で実践してきた「クロスファンクショナル・クロスカルチュラル」や「コミット アンド ターゲット」などからなる、利益ある持続的な成長を確かなものとするための行動指針です。

一人ひとりの意欲が生み出す、持続的成長と企業価値

「日産ウェイ」は、2006年度よりグローバルに共有化し、すべての社員が実践できるよう、日本語、英語、フランス語、中国語、ドイツ語、スペイン語、オランダ語の7カ国語で書かれており、社員一人ひとりの行動指針となっています。基本はつねにお客さまに焦点を当て、お客さまから出発し、継続的に価値を創出しながら企業価値の向上を高める活動を行っていくことです。これらを実行するうえで、私たちは“The power comes from inside”「すべては一人ひとりの意欲から始まる」という考え方が大切であ



はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
ステークホルダーへの価値の向上	046
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
社会とともに	073
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

ると考えています。多様性を基本とした環境で、社員一人ひとりが異なる人びとや社会から学び、お互いの力を引き出し合い、連携を深め、さらなる進化を目指しています。

「すべては一人ひとりの意欲から始まる」

焦点はお客さま、原動力は価値創造、成功の指標は利益です。

Mindset 心構え

- 1. Cross-functional, Cross-cultural**
クロスファンクショナル・クロスカルチュラル
異なった意見・考えを受け入れる多様性
- 2. Transparent** トランスペアレント
すべてを曖昧にせず、分かりやすく共有化
- 3. Learner** ラーナー
あらゆる機会を通じて、学ぶことに情熱を。学習する組織の実現
- 4. Frugal** フルーガル
最小の資源で最大の成果
- 5. Competitive** コンペティティブ
自己満足に陥ることなく、つねに競争を見据え、ベンチマーキング

Actions 行動

- 1. Motivate** モチベート
自分自身を含め、人のやる気を引き出していますか？
- 2. Commit & Target** コミット アンド ターゲット
自ら達成責任を負い、自らのポテンシャルを十分に発揮していますか？
- 3. Perform** パフォーマンス
結果を出すことに全力を注いでいますか？
- 4. Measure** メジャー
成果・プロセスは誰でも分かるように測定していますか？
- 5. Challenge** チャレンジ
競争力のある変革に向けて継続的に挑戦していますか？

内部統制システム・コンプライアンス

公正で透明性のある企業活動を維持する内部統制システム

日産は、社内外に対して透明性の高い経営を重視するとともに、明確なコミットメントを達成するために、一貫性のある効率的な経営を目指しています。この基本理念のもと、取締役会では、会社法に定める内部統制システムおよびその基本方針を決議しました。取締役会はその責任において、体制と方針の実行状況を継続的に注視するとともに、必要に応じて変更・改善を行っています。また、内部統制全般について担当する役員を置いています。

日産では、監査役制度を採用しています。監査役は、取締役会への出席のほか、取締役などから職務状況の聴取などを行い、取締役の職務執行全般にわたり監査をしています。また、定期的に会計監査人から監査の計画および実施結果の報告を受けるとともに、意見交換を行い、その妥当性を判断しています。同様に、内部監査部署からも定期的に報告を受け、監査の参考としています。



はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
ステークホルダーへの価値の向上	046
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
社会とともに	073
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

法令を順守し、倫理的な企業活動を行うための枠組み

すべての社員が高い倫理観を持ってコンプライアンス（法令順守）を実践することが、CSR推進の土台です。日産は2001年に、日産グループすべての社員がどのように行動すべきかを「日産グローバル行動規範」として定め、グローバルに展開しています。さらに、「グローバルコンプライアンス委員会」を組織して法令・倫理順守機能を高め、違法行為や非倫理的行為を未然に防ぐ体制を構築。日本、北米・中南米、欧州、一般海外地域など各拠点の委員会が連携してコンプライアンスの維持・推進に努めています。

日産グローバル行動規範

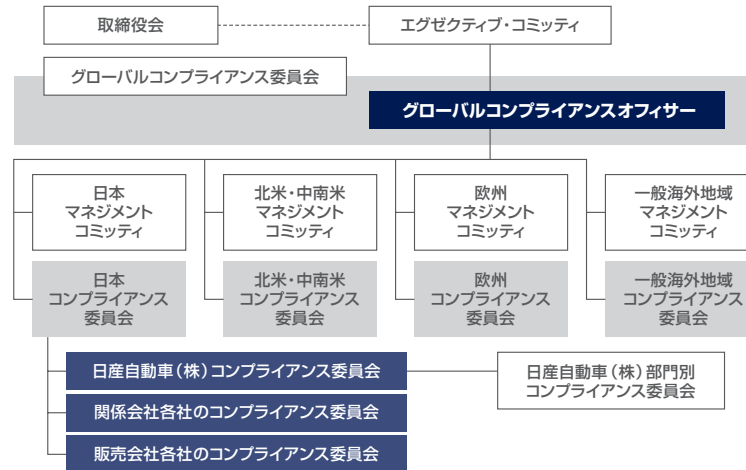
信条

私たちは、お客さま・従業員・株主・取引先・地域社会に対し、つねに実直・誠実・公正・敬意の姿勢を持って接します。下記行動規範は、日産グループに働くすべての従業員に適用となります。また、われわれ一人ひとりはこの行動規範をしっかりと維持・改善していく責任があります。

グローバル行動規範（抜粋）

1. 法律・ルールの順守
2. 利益相反行為の禁止
3. 会社資産の保護
4. 公平・公正な関係
5. 透明性と説明責任の確保
6. 多様性の尊重と機会平等
7. 環境保護
8. 実践・報告の義務

グローバルコンプライアンス委員会組織



責任者であるグローバルコンプライアンスオフィサーの統括のもと、各地域ごとのコンプライアンス委員会を設置しています。内部監査や社内からの通報などにより問題の早期発見に努めるとともに、問題の解決、行動規範のさらなる整備や啓発活動を行っています。

はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
ステークホルダーへの価値の向上	046
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
社会とともに	073
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

行動規範浸透に向けた啓発活動を推進

日産は、各地域ごとにコンプライアンス施策を進める担当部署と推進責任者を配置し、コンプライアンスへの意識を高める活動を推進しています。また、すべての社員が行動規範を理解し、透明かつ公正な判断を確実なものとするための教育を重視しています。

日本では、役員を含めたすべての社員を対象に、2004年4月に制定した「日産行動規範（日本版）～わたしたちの約束～」についてe-ラーニングまたはVTRによる教育を行い、受講後には規範順守に関する誓約書への署名を求めるなど、周知徹底を図っています。また2007年度には、法改正などに対応すべく、行動規範の改定と全社員への再教育を実施し、コンプライアンスをさらに強化しています。

北米では法令順守の全社員教育を定期的実施し、欧州では各国共通のガイドラインを作成。一般海外地域でも、各国の事情を考慮したガイドラインを作成して周知を進めています。グループ各社でも同規範を基準とした行動規範を導入しています。

また、「グローバル内部者取引防止管理規程」や「個人情報管理規程」などの社内規程を整備し、教育・研修プログラムを通じて、周知徹底と啓発を行っています。

企業倫理順守の風土づくりにオープンな仕組みを導入

日産は社内の自浄作用を高めるために、社員からの意見・質問・要望を会社に自由に伝える仕組みとして、内部通報制度「イージーボイスシステム」を採用しています。2006年4月に施行された公益通報者保護法に則した通報者保護の観点も織り込み、日本の日産グループ各社も導入しています。

独立した組織による効率的な内部監査を実施

日産の内部監査部署は、COO（最高執行責任者）直轄の独立した組織として国内内部監査室を設置し、日産および日本国内の連結子会社の業務執行に関する監査を実施しています。グローバルでは、各地域の統括会社に設置された内部監査部署が担当しており、具体的な監査活動をチーフインターナルオーディットオフィサー（CIAO）が統括することにより、グループ・グローバルに有効かつ効率的な内部監査を実施しています。



「日産行動規範（日本版）
～わたしたちの約束～」

はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
ステークホルダーへの価値の向上	046
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
社会とともに	073
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

多様化するリスクに備えた管理体制

日産では、リスクを「事業目的の達成を阻害する要因」と定義し、リスクをいち早く察知・評価して必要な対策を検討・実行することにより、発生率の低減と発生した場合の被害を最小にとどめる努力をしています。

この目的の達成のため、日産とグループ会社は「グローバルリスク管理規程」に基づき行動しています。全社的なリスクマネジメントについては、エグゼクティブ・コミッティ（経営会議）の各メンバーを管理責任者とし、リスク管理マニュアルの策定など具体的な対応への備えを講じています。また、個別のビジネスリスクに対しては、発生時のリスクを極小化するために、各部門の責任において、本来業務の一環として必要な措置を講じる体制を整えています。

個人情報保護法に対する取り組み

日本では2005年4月に「個人情報の保護に関する法律」が施行され、日産では社内の管理体制およびルール、手続きを整備した個人情報管理規定を策定しました。導入当初、全社員を対象にe-ラーニングを実施し、新卒入社および中途入社の社員に対してもe-ラーニングを実施しています。

個人情報保護法全社事務局を中心に、情報漏えい事案をもとに情報セキュリティをより強化するために必要な対策も随時実施しています。日本国内の関連会社においても同様に実施しています。

2007年度は、2006年9月に改訂した「情報セキュリティハンドブック」に準拠したe-ラーニングを全社員を対象に実施しました。

日本において日産車の販売を金融面からサポートしている（株）日産フィナンシャルサービスでは、金融事業という特性から、個人情報保護法の施行以前より個人情報保護のための体制整備に取り組み、2005年度末には個人情報の適切な取り扱いを実施している事業者認定される「プライバシーマーク」を取得しています。



<http://www.nissan.co.jp/SITEINFO/privacypolicy.html>

日産自動車（株）における個人情報の取り扱いに関する詳しい情報は、上記のウェブサイトに記載しています。あわせてご覧ください。

はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
ステークホルダーへの価値の向上	046
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
社会とともに	073
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

より良き地球市民を目指して、「国連グローバル・コンパクト」へ参加

日産自動車は、国連が提唱する「人権・労働・環境・腐敗防止」についての普遍的原則である「国連グローバル・コンパクト」に2004年1月以降、参加しています。「国連グローバル・コンパクト」は、国連のコフィー アナン事務総長(当時)が1999年に世界経済フォーラム(ダボス会議)で提唱した、企業による自主行動原則です。

下記10原則に向けた活動状況を報告するため、毎年サステナビリティレポートを国連グローバル・コンパクトのウェブサイトに掲載し、公開しています。

グローバル・コンパクトの10原則

人権

- ①企業はその影響の及ぶ範囲内で国際的に宣言されている人権の擁護を支持し、尊重する。
- ②人権侵害に加担しない。

労働

- ③組合結成の自由と団体交渉権を実効あるものにする。
- ④あらゆる種類の強制労働を排除する。
- ⑤児童労働を実効的に廃止する。
- ⑥雇用と職業に関する差別を排除する。

環境

- ⑦環境問題の予防的なアプローチを支持する。
- ⑧環境に対して一層の責任を担うためのイニシアチブをとる。
- ⑨環境を守るための技術の開発と普及を促進する。

腐敗防止

- ⑩強要と賄賂を含むあらゆる形態の腐敗を防止するために取り組む。

持続可能な開発のための世界経済人会議(WBCSD)への参画

日産は、持続可能な開発のための世界経済人会議(WBCSD)に加盟しています。WBCSDは、「経済成長」「環境保全」「社会的公平」という3本の柱による持続可能な発展に対して、共有の決意を持つ国際的な企業の連合体です。現在、世界35カ国を超える国から、20以上の業種にわたる約200の企業が参加しています。産業界の貢献を実現するためにWBCSDが実行すべき目標は以下のとおり。

産業界におけるリーダーシップ—持続可能な発展に向け産業界を導く存在となること

政策策定—持続可能な発展に産業界が貢献するための枠組みの構築を目指し、政策決定に参画すること

ビジネス・ケースの実践—持続可能な発展に向けた産業界としての取り組みを策定、実践すること

ベスト・プラクティスの提示—持続可能な発展のための問題解決に対する産業界の進捗を提示し、WBCSDメンバー間でその先進的な事例を共有すること

グローバルな展開—開発途上国の持続可能な将来に貢献すること



<http://www.unglobalcompact.org/>
<http://www.unic.or.jp/globalcomp/index.htm>

国連グローバル・コンパクトに関する詳しい情報は、上記の公式ウェブサイトをご覧ください。



World Business Council for Sustainable Development



<http://www.wbcsd.org>

持続可能な開発のための世界経済人会議(WBCSD)に関する詳しい情報は、上記の公式ウェブサイトをご覧ください。

はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
ステークホルダーへの価値の向上	046
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
社会とともに	073
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

ルノーと日産のアライアンス（提携）

力の結集、そして成果へ、より強固なパートナーシップでさらなる進化を目指す

1999年3月27日に締結されたルノーと日産のアライアンス（提携）は、お互いの企業文化やブランド・アイデンティティを尊重し合うことを基本とした、日本とフランスの企業間で結ばれた初のアライアンスです。両社は、利益ある成長と共通利益の追求という共通戦略を掲げています。

アライアンス・ビジョン

2004年3月、アライアンス5周年を機に、両社のアライアンスのさらなる飛躍に向けた決意を表明するとともに、両社で共有すべき価値観および理念について再確認しました。

RENAULT NISSAN



「ラグナ」(ルノー)

「ティアナ」(日産)

ルノー・日産アライアンス

アライアンスの普遍的な理念

ルノーと日産のアライアンスは、株式を相互に保有し合う2つのグローバル企業が、下記の基本理念の実現を通じ、力を結集して高い成果を目指す、世界に類のないパートナーシップである。

- I. 双方に有益 (Win-Win) な結果をもたらすことを目的として、建設的なアプローチにより両社の強みを相互に活用することで、最大限のシナジーを創出する。
- II. おのおのの企業の自律性を確保し、かつ、おのおのの企業アイデンティティおよびブランド・アイデンティティを尊重し合う。

アライアンス・ビジョン—目指すべき姿

共有すべき志

- ・アライアンスは、世界の持続可能な発展、すなわち環境・社会的責任・経済の調和のとれた発展に貢献する。
- ・アライアンスは、それぞれの株主に対し魅力的なリターンをもたらす。
- ・アライアンスは、魅力的な仕事とやりがいのある挑戦を社員に提供し、つねに優秀な人財を引きつけ、グローバルな視野と起業家精神を育成する。

マネジメント指針

- ・アライアンスは、相互の信頼と尊敬および高い透明性に基づいている。
- ・アライアンスの普遍的な理念は、以下のとおり世界の模範となるような企業統治を実践する。
 - 明確な意思決定による迅速な実行、結果に対する明確な責任、意欲的な水準の業績を目指す。
 - 両社の強みを相互に活用し、双方に有益 (Win-Win) なシナジーを創出することで効率の最大化を図る。

3つの目標

アライアンスは、利益ある成長戦略を策定・実行し、以下3つの目標達成を目指す。

1. 各地域、各市場セグメントで、製品品質、魅力品質、販売・サービス品質の3分野において、ベスト3に入る自動車グループであるとお客さまから認識されること。
2. おのおの得意とする特定の領域で責任あるリーダーシップを発揮し、将来的に重要な技術で、世界のベスト3に入る自動車グループになること。
3. 高い営業利益率を維持し、つねに成長することにより、両社の営業利益合計額が、世界の自動車グループ中でつねに3位以内に入る企業グループになること。

はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
ステークホルダーへの価値の向上	046
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
社会とともに	073
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

アライアンスの組織と決定プロセス

アライアンスの組織は、9つのSC、18のCCT、9つのFTT、5つのTT、ルノー・日産インフォメーションサービス(RNIS)とルノー・日産インフォメーションサービス(RNIS)という2つの共同会社で構成されています(下記の組織図を参照)。SCのリーダーは、ルノーと日産の副社長あるいは常務が担当し、CCT/FTT/TTは原則としてこの9つのSCの傘下に入ります。SCは傘下のCCT/FTT/TTを管理し、CCT/FTT/TTが決断を下せない問題を解決します。また、SCは実務的な課題を扱い、戦略的な課題については、両社のエグゼクティブ・コミッティ・メンバーが出席するアライアンス・ボード・ミーティング(ABM)で議論、決定されます。

アライアンス2007年のグローバル販売台数

2007年、ルノーと日産のグローバル販売台数は616万台に達し、アライアンスとして年間販売記録を更新しました。また、世界の自動車市場において約9%のシェアを獲得しています。

現場レベルでの技術交流を促進する「アライアンス・エンジニア交流プログラム」

アライアンス・エンジニア交流プログラム(AEEP)は、日産・ルノー両社から選出された若手エンジニアがペアを組み、共通の課題にチャレンジする、技術分野での関係強化を目的とした交流プログラムです。2005年度にスタートした本プログラムは、これまでに車両開発CCT(クロス・カンパニー・チーム)、品質FTT(ファンクショナル・タスク・チーム)、車両生産技術CCTにおいて実施され、2007年度は物流CCTと製造CCTにも対象を広げて導入しました。6ヵ月から1年に及ぶ活動期間に得られた新たなシナジーの可能性については両社の担当役員に報告され、将来の共通技術プロジェクトの達成とアライアンス人材の育成に反映しています。



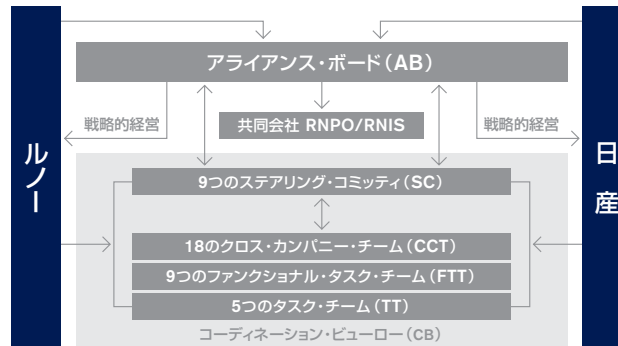
<http://www.nissan-global.com/JP/COMPANY/PROFILE/ALLIANCE/RENAULT01/>

ルノーとの提携に関する詳しい情報は、上記のウェブサイトに記載しています。あわせてご覧ください。



「アライアンス・エンジニア交流プログラム」の参加者

アライアンスの組織図



AB：アライアンス・ボード(Alliance Board)

アライアンスの中長期的戦略およびグローバルレベルでの共同活動の決定を行います。

SC：ステアリング・コミッティ(Steering Committee)

アライアンス・ボード・ミーティングの議題とすべき重要な課題を提案し、傘下のCCT/FTT/TTの活動を管理し、CCT/FTT/TTが決断を下せない問題を解決します。

CCT：クロス・カンパニー・チーム(Cross Company Team)

ルノー・日産間のシナジーの可能性を追求し、共同プロジェクトを企画・提案し、進捗を管理します。

FTT：ファンクショナル・タスク・チーム(Functional Task Team)

CCTの活動を支援し、プロセス、標準化、管理、情報ツールなどを含むサポート機能面から、ルノー・日産間のシナジー創出に貢献します。

TT：タスク・チーム(Task Team)

特定の課題が発生したときに、解決に向けて取り組みます。

CB：コーディネーション・ビューロー(Coordination Bureau)

ルノーはパリに、日産は東京にオフィスを置き、SCやCCT、FTT、TTの活動のサポートと、アライアンス・ボード・ミーティングの準備を行います。